

岩手県保健福祉部（障がい保健福祉課 子ども子育て支援室）主催

令和6年度

難聴児支援県民公開講座

開催日：令和7年1月19日（日）

会場：いわて県民情報交流センターアイーナ 803 会議室（Zoom ライブ配信）

令和6年度難聴児支援県民公開講座 開催要領

- 1 目的
医療・保健・福祉・教育等、難聴児支援に携わる関係者が、各年齢段階の難聴児支援の現状と方向性を継続的な研修により理解するとともに、本県難聴児支援の一層の推進を図る。
- 2 主催
岩手県保健福祉部（障がい保健福祉課 子ども子育て支援室）
- 3 共催
岩手県教育委員会、岩手医科大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科、同医学部臨床遺伝学科
- 4 主管
岩手県立療育センター
- 5 テーマ
「きこえない・きこえにくい子どもたちの困り感の実態に対するセルフアドボカシー育成を盛り込んだ指導・支援を考える」
- 6 開催日
令和7年1月19日（日）13：30～15：30 会場及びZoom ライブ配信
令和7年1月23日（木）～令和7年2月24日（月） YouTube オンデマンド配信
- 7 会場
いわて県民情報交流センターアイーナ 803 会議室
- 8 対象
県民一般、各市町村及び保健所母子保健担当職員、障がい福祉担当職員、児童福祉担当職員、医療関係者、教育関係者、保育関係者

日 程

開 会 13:30

1 基調講演 13：35～14：05

「合理的配慮」や「セルフアドボカシー」について

講 師：松崎 丈 氏（宮城教育大学教育学部特別支援教室専攻教授）

2 支援者からの提言 14：05～14：20

「きこえない・きこえにくい子どもたちとかかわる教員として大切にしていること」

提言者：熊谷美智子 氏（県立盛岡聴覚支援学校教諭）

※休憩 14：20～14：30

3 シンポジウム 14：30～15：20

「当事者の経験から～一人ひとり異なる、必要な「合理的配慮」と「セルフアドボカシー」～」

座長：石川 敬 氏（元 県立盛岡聴覚支援学校校長）

シンポジスト：〈当事者〉内記 裕美 氏（県立盛岡聴覚支援学校教諭）

飛澤 康代 氏（団体職員）

助言者： 松崎 丈 氏（宮城教育大学教育学部特別支援教室専攻教授）

熊谷美智子 氏（県立盛岡聴覚支援学校教諭）

コメンテーター： 小林有美子 氏（岩手医科大学医学部臨床遺伝学科医師）

金城 伸祐 氏（岩手医科大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座医師）

質疑応答 15:20～15：30

閉 会 15:30

【講師紹介】

松崎 丈（まつぎき じょう）先生

1977年・広島生まれ。

先天性風疹症候群による重度難聴（両耳共110dB）。手話と文字で意思疎通。宮城教育大学で中学校・高等学校教諭一種美術免許状、聾学校教諭専修免許状を取得。

東北大学大学院教育学研究科博士後期課程を修了し、博士（教育学）を取得。博士論文で東北大学総長賞を受賞。



宮城教育大学教育学部特別支援教育専攻長・教授、しょうがい学生支援室副室長、教職大学院兼任。専門は教育心理学・特別支援教育（主に乳幼児相談から高等部教育までの聴覚障害・ろう重複障の教育支援）・コミュニティ心理学（主に特別支援学校におけるオンサイト研修型学校コンサルテーション）・障害学生支援。

主な書籍では、『特別支援教育への招待』（分担執筆・教育出版 [2019]）、『聞こえなくても大丈夫！－人工内耳も手話も』（分担執筆・ココ出版 [2022]）、『「LISTEN リッスン」の彼方に』（分担執筆・論創社 [2023]）、『障害から始まるイノベーション』（分担執筆・北大路書房 [2023]）、『聴覚障害×当事者研究』（編著執筆・金剛出版 [2023]）『デフフッドを導入した教育実践－自分探しとカリキュラムとの関係』（分担執筆・関東地区聴覚障害教職員懇談会 [2024]）ほか。

学生教育および研究活動、学校支援以外では、国際連合防災プラットフォーム会合（スイス・ジュネーブ）で『東日本大震災における聴覚障害者とICTの問題』の講演で提言し「仙台防災枠組2015-2030」に盛り込まれる、国際難聴者会議（ノルウェイ・ベルゲン）で難聴・中途失聴と防災に関する講演を行う、4回にわたるアメリカの大学の調査研究から日本の聴覚障害学生支援ネットワーク構築を推進する、学術レベルに対応できる手話通訳者および文字通訳者の技術向上に関する研修コンテンツの開発や研修指導を行う、台湾聾教育百周年記念国際会議の招聘講演（テーマ「手話とろう重複障害教育」）で講師を担当する、大阪生野聴覚支援学校児童交通死亡事故裁判で教育分野の専門家として証人尋問に出席する、NHK報道における障害と防災のプロジェクトで聴覚障害に関する専門的助言・指導を担う、文部科学省「障害者の生涯学習」および「障害学生支援」について聴覚障害の専門家としてヒアリングに出席する、総務省「ICT機器・サービスの情報アクセシビリティ」に聴覚障害に関する専門家として関わる、公立ろう学校のカリキュラムにデフフッドの視点を導入する取り組みを推進する、など各分野への貢献にも取り組んでいる。